取組例２　身近な言動を見直そう

日常の何気ない言動や些細な出来事、当たり前だと思っていることを人権の視点で

見直し、自分の人権感覚を振り返ってみることが大切です。

名前の呼び方

いじめの早期発見

Ｑ子どもの行き過ぎた関わりを「じゃれあい」として見過ごしていませんか？

○一方の子どもや周りの人が「遊び」のつもりでも、それをされている子どもがどう感じているのかを大事にして、表情や言動をよく観察したり、積極的に声を掛けたりすることで、いじめの早期発見につなげましょう。

Ｑ子どもを「おまえ」と呼んだり、名前を「○○」と呼び捨てで呼んだり、人によって呼び方を変えていませんか？

○一人一人の子どもは、かけがえのない存在であり、人格を尊重するという趣旨から、呼び捨てにせず、男女ともに「さん」を付けて呼ぶことが大切です。

押しつけ、思い込み

Ｑ「一人っ子だからね。」「何をやっても遅い。」などと、子どもの個性や特徴（家庭環境、性格、能力特性、国籍等）の一部を捉えて、決めつけた見方をすることはありませんか？

○子どもの内面をよく理解し、常に子ども一人一人の立場に立った言動をすることが基本です。

パワーハラスメント

Ｑ部活動の競技中などに、子どもがミスをした時、不適切な言葉で叱ったり、怒鳴ったりすることはありませんか？

○地位や立場を利用して、威圧的な言動をし、相手を萎縮させたり、一方的な指導に陥ったりしていないか考えてみる必要があります。

○管理職や年上の教職員による同僚へのパワーハラスメントも許されません。自分の思い込みに固執するあまり、相手の気持ちに思いが至らず、人権的配慮を欠いた言動をしていないか振り返りましょう。

プライバシー

Ｑ黒板の隅に、忘れ物をしたり、提出物を出していなかったりする子どもの名前や出席番号などをメモすることはありませんか？

○教室などに、課題等の提出状況や学習ドリルの進度、身体的状況を示すグラフを掲示することもプライバシーに関わる重大な問題です。

セクシュアルハラスメント

Ｑ子ども、または、教職員・保護者に対し、性的嫌悪感を与える言動を行っていませんか？

○スキンシップや指導のつもりであっても、相手が不快と感じたら、それはセクシュアルハラスメントにつながります。親しみを込めたつもりでも、相手やそれを見た周囲の人がどう感じるか、考えて行動することが大事です。

教職員間の言動

Ｑ教職員間で、子どものプライバシーを無視した会話がなされたり、からかいや嘲笑の対象として子どもの話をしたりすることはありませんか？

○日頃から、子どもや教職員の良さを見つけ、肯定的に受け止めるあたたかな雰囲気を醸成していきましょう。